

(19) Japanese Patent Office (JP)  
(12) Gazette of Laid-Open Utility Model Application (U)  
(11) Utility Model Application Publication  
No. Sho 57 (1982)-205216

(51) Int. Cl.<sup>3</sup>: A41D 21/00

Identification Symbol:

JPO File Number: 6849-3B

(43) Publication Date: December 27, 1982

Request for Examination: Yes

(2 pages in total)

---

(54) Thermal Earmuffs

(21) Utility Model Application No. Sho 56 (1981)-93178

(22) Application Date: June 24, 1981

(72) Deviser: Kikumori Kawabata

27-5, Honcho 2-Chome, Nakano-ku, Tokyo

(71) Applicant: Kikumori Kawabata

27-5, Honcho 2-Chome, Nakano-ku, Tokyo

(74) Attorney: Kiyoshi Nakayama

Patent Attorney

(57) Scope of Claim for Utility Model Registration

Earmuffs comprising: a supporting member formed in a saucer shape and provided with the inside of the saucer facing the center of the bottom; a frame body having guide holes above and below an opening of said supporting member and a slot provided between one of said guide holes and a periphery of said frame body; a stuffed animal, which is made of a cloth suitable for thermal earmuffs, that mainly forms the face of a rabbit, cat, dog, etc., and is prepared by sewing in a bursiform, wherein said frame body is housed in said stuffed animal with said slot as the upper side of said stuffed animal, and an opening of said stuffed animal is pressed from said slot into said frame body, and a leg of a head band is inserted from a slit formed in said stuffed animal in order to be attached to said guide hole and said supporting member inside of said stuffed animal.

### Brief Explanation of the Drawings

Fig. 1 shows a perspective view of the whole earmuffs of the present device. Fig. 2 shows a partly sectioned view of a frame body. Fig. 3 is a perspective view of the frame body. Fig. 4 is a perspective view of a stuffed animal. Fig. 5 is a longitudinal sectional view of the completed earmuff with the part of the stuffed animal omitted.

- |      |                   |
|------|-------------------|
| 1    | Frame body        |
| 2    | Supporting member |
| 3, 4 | Guide hole        |
| 5    | Slot              |
| 6    | Head band         |
| 7    | Leg               |
| 8    | Stuffed animal    |
| 9    | Slit              |

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭57-205216

⑬ Int. Cl.<sup>9</sup>

A 41 D 21/00

識別記号

庁内整理番号

6649-3B

⑭ 公開 昭和57年(1982)12月27日

審査請求 有

(全 2 頁)

⑮ 防寒用耳あて

⑯ 実 施 昭56-08178

⑰ 出 願 昭56(1981)6月24日

⑱ 考 案 者 川畑菊盛

東京都中野区本町2丁目27番5

号

⑲ 出 願 人 川畑菊盛

東京都中野区本町2丁目27番5

号

⑳ 代 理 人 弁理士 中山清

㉑ 実用新案登録請求の範囲

枕状に形成し底部中央に枕の内側に向って突設した支持部材と、支持部材の開口部前後に案内口を形成し、一方の案内口と肩胛との間に差込口を設けた枠体と、保温用耳あてに適する布製で兎、猫、犬などの動物の顔を主体に模成し首締め紐状に縫製した縫いぐるみとからなり、縫いぐるみ内に前記枠体を、差込口を上方に向けて収容し、縫いぐるみの開口部分を差込口から枠体内に押込むと共に、縫いぐるみに設けた切込みからヘッドバ

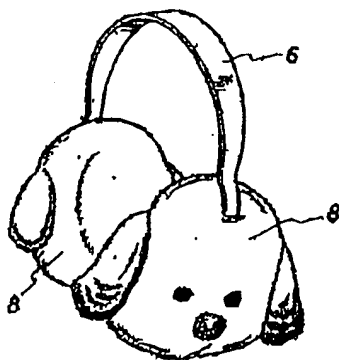
ンドの脚部を挿入し、内部の枠体の案内口、支持部材に嵌着した防寒用耳あて。

図面の簡単な説明

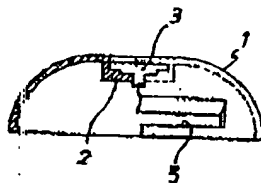
第1図は本考案の耳あての全体の斜視図、第2図は枠体の一部破断の正面図、第3図は同斜視図、第4図は動物縫いぐるみの斜視図、第5図は全体を組み立て縫いぐるみを省略した横断面図である。

1…枠体、2…支持部材、3、4…案内口、5…差込口、6…ヘッドバンド、7…脚部、8…縫いぐるみ、9…切込み。

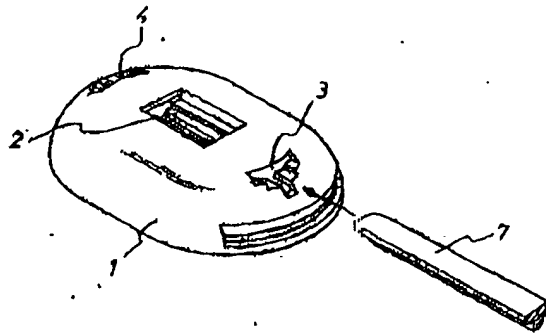
第1図



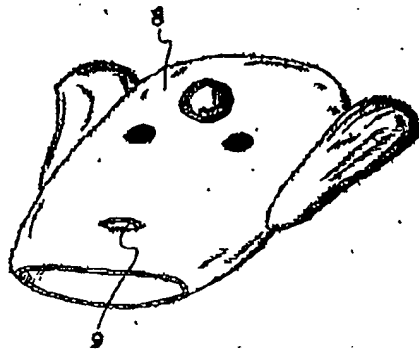
第2図



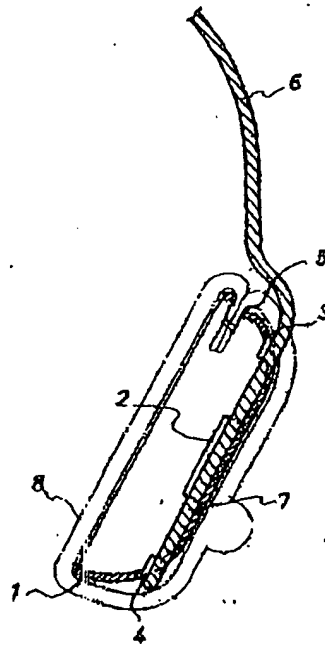
第3圖



第4圖



第5圖



公開実用 昭和57—

205216

BEST AVAILABLE COPY



(4,700円)

実用新案登録願 ( )

昭和 56 年 6 月 24 日

特許庁長官 島田 嘉 樹 殿

1. 考案の名称

留聲用耳あて

2. 考案者

住所

実用新案登録出願人と同じ

氏名

3. 実用新案登録出願人

住所

東京都千代田区本町3丁目17番5号

名称

川 堀 菊 雄

4. 代理人

住所

東京都千代田区麹町4丁目1番地西脇ビル6階

電話 03 (263) 6884

氏名

(6777) 弁理士 中山

5. 添付書類の目録

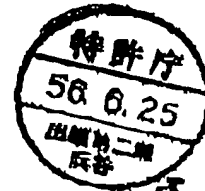
- |              |    |
|--------------|----|
| ・(1) 明細書     | 1通 |
| (2) 図面       | 1通 |
| ・(3) 委任状     | 1通 |
| (4) 願書原本     | 1通 |
| ✓(5) 出願審査請求書 | 1通 |

56 093178

205216

式 登 査 方

126





明 細 書

1 考案の名称

防寒用耳あて

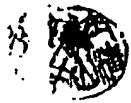
2 実用新案登録請求の範囲

- (1) 碗状に形成し底部中央に碗の内側に向つて突設した支持部材と、支持部材の開口部前後に案内口を形成し、一方の案内口と周縁との間に蓋込口を設けた棒体と、保護用耳あてに連する布製で兎、猫、犬などの動物の顔を主体に構成し予じめ碗状に縫製した縫いぐるみとからなり、縫いぐるみ内に前記棒体を、蓋込口を上方に向けて収容し、縫いぐるみの開口部分を蓋込口から棒体内に押込むと共に、縫いぐるみに設けた切込みからヘッドバンドの脚部を挿入し、内部の棒体の案内口、支持部材に装着した防寒用耳あて。

a 考案の詳細な説明

本考案は防寒用耳あてに関し、詳しくは動物縫いぐるみによる耳あてに関する。

従来この種の耳あてとして提案されたものは



布製保温材をリング状枠体にくるみ、ヘッドバンドを装着するもう1つの枠体に係止していたので耳あての形状を任意のものに変更して形成することが困難であつた。上記した従来構造は保温材を縫製することなく、2つの枠体の係止によつて耳あてを構成し得ることで製造が容易な利点を有するが、耳あての形状を変更しようとするれば枠体の形状を変更しなくてはならなかつた。しかしながら枠体はプラスチック製であるから枠体の変更は新たに金型の製造を要求されるので、多種の枠体を製造するのは耳あての製造単価を高騰させる原因となるものであつた。

本考案は上述した実状に鑑みて考案されたものであつて、予じめ袋状に形成した布製保温材をヘッドバンドを装着する1側の枠体に装着することによつて耳あてを形成するものであつて、耳あてを任意の形状、詳しくは動物種いぐるみに形成することを特徴とする耳あてを提供しようとするものである。

次に本考案の詳細を図示した実施例によつて



説明する。1は筒状の枠体で、底部中央に断面の空間がT字状を呈する支持部材2を筒の内側に向けて設けると共に、支持部材2の開口部前後に案内口3, 4を形成してある。前記支持部材2は後述するヘッドバンドを係止するためのものであるから、断面の空間形状はヘッドバンドの断面形状と合えば任意に変更できる。5は前記枠体1の一方の案内口3と周縁との間に設けた差込口で、枠体1をくるむ紐いぐるみの一部を枠体内に挿入するためのものであり、本実施例では差込口5個が紐いぐるみの上方となる。

6はヘッドバンドで正面形状がU字形をしており、両端に設けた脚部7, 7の断面形状をT字状に形成してある。

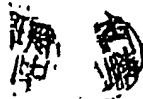
8は動物紐いぐるみで、保温用耳あてに通する布を使用し、猫、犬などの動物の顔を主体に構成するもので、予じめ袋状に縫製してあり、ヘッドバンドの脚部7を挿入する切込み9を設けてある。

枠体1はプラスチック製であるから、まず枠



公開実用 昭和57-1

205216



体の開口縁にウレタン等の当材（図示しない）を貼着してから枠体1を縫いぐるみ8内に、差込口5を上方に向けて収容し、次いで縫いぐるみの開口部分を前記差込口5内に押込んで枠体1を芯とする動物縫いぐるみを組立てる。その後、縫いぐるみ8の切込み9からヘッドバンド6の脚部7を挿入し、さらに脚部7は枠体1の案内口3、支持部材2、もう1つの案内口4に至るまで挿入して耳あてを得る。

又、ヘッドバンド6のもう一方の脚部7にも前述と同様に構成した動物縫いぐるみを装着して耳あてを完成する。

以上説明したように本考案は予じめ袋状に形成した布製の動物縫いぐるみに枠体を収容し、縫着することなく枠体と縫いぐるみを結合した後、ヘッドバンドの脚部を枠体内に挿入して耳あてを構成するようにしたから、耳あての形状が従来の枠体の形状に限定されずに任意の動物縫いぐるみで形成することが出来ると共に、枠体が縫いぐるみの中に収容されて外部に露出し



ないから、暖かい感じを持つた耳あてとなる特徴を有する。

#### 4 図面の簡単な説明

第1図は本考案の耳あての全体の斜視図、第2図は棒体の一部破断の正面図、第3図は同斜視図、第4図は動物繞いぐるみの斜視図、第5図は全体を組み立て繞いぐるみ部を省略した縦断面図である。

1…棒体

6…ヘッドバンド

2…支持部材

7…脚部

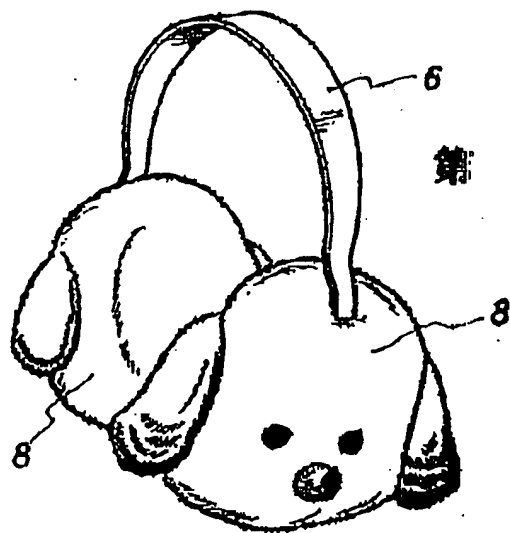
3, 4…案内口

8…細いぐるみ

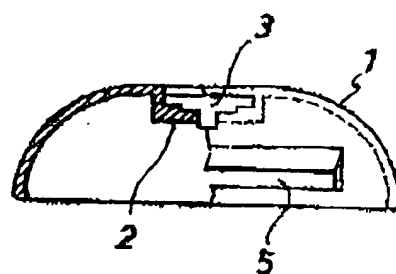
5…差込口

9…切込み

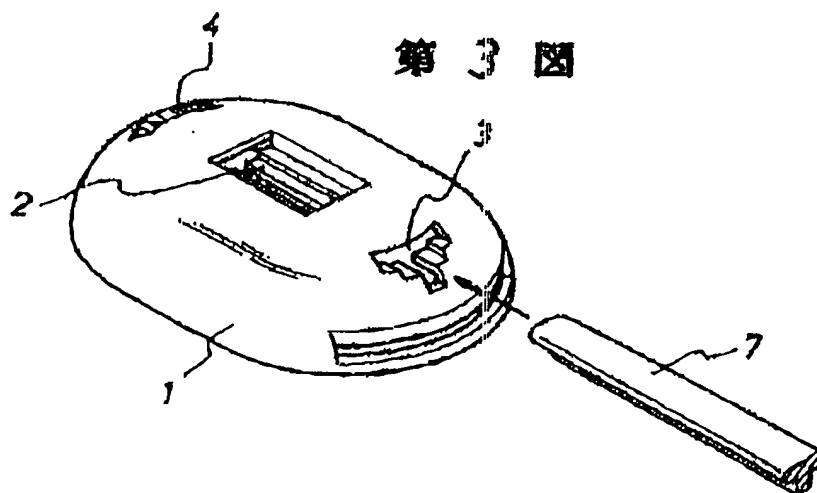
実用新案登録出願人 川 畑 菊 盛  
代理人 井 理 士 中 山 清



第 1 図



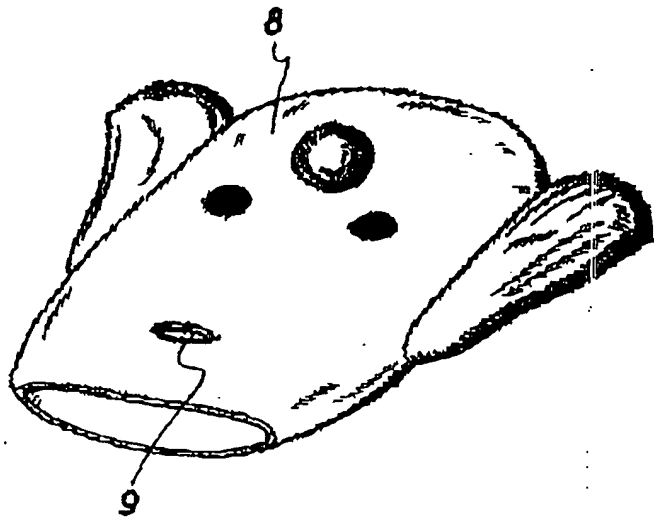
第 2 図



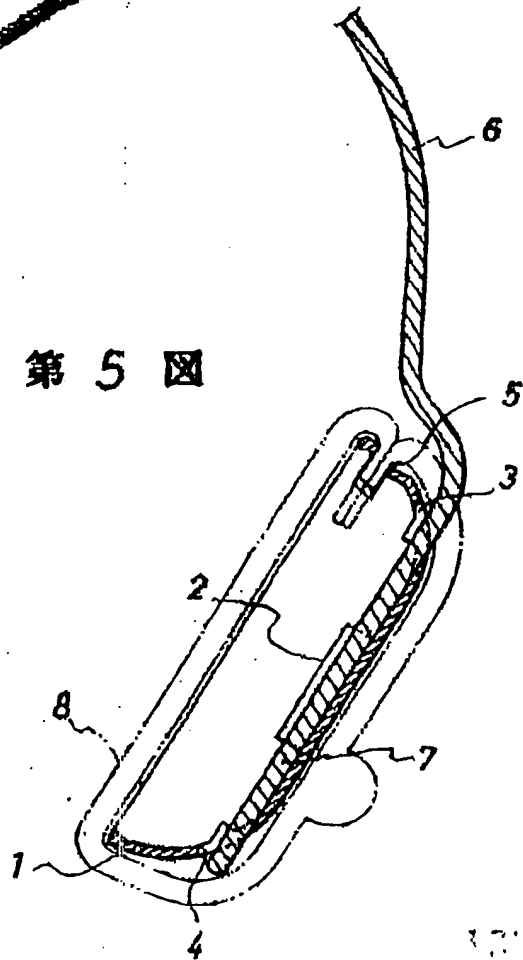
第 3 図

1/2

第 4 圖



第 5 圖



代 理 人 弁 理 士 中 山 清